

CSR リスクマネジメントに関する国際会議（春） 開催報告

日 時	2014 年 3 月 14 日(金) 午後 2 時～6 時
会 場	関西学院大学東京丸の内キャンパス ランバスホール
主 催	経済人コーポラ卓会議日本委員会
協 賛	日本郵船株式会社、三菱重工業株式会社 オリンパス株式会社、サントリーホールディングス株式会社
協 力	国連「人権と多国籍企業及びその他の企業の問題」 に関するワーキンググループ



2014 年 3 月 14 日に開催した CSR リスクマネジメントに関する国際会議（春）を開催は、2013 年 9 月に開催した「CSR リスクマネジメントに関する国際会議」の続編という位置付けであるとともに、本年 9 月に開催予定の「CSR リスクマネジメントに関する国際会議（秋）」のプレイベントという性質を持ち合わせています。

この会議には 22 の企業・団体より合計 28 名が参加しました。会議の前半では、ステークホルダー・エンゲージメントプログラム（人権デューデリジェンスワークショップ）における議論の成果を取りまとめた「業界毎に重要な人権課題（第二版）」の内容とその成果、寄せられたパブリックコメントの内容とそれへの対応について説明を行い、また同プログラムに参加されたオリンパス、日本郵船、三菱重工業、日本通運の各社より、同プログラムへの参加によって得た気付きと、その成果をどのように自社の活動に反映させているかについて紹介されました。

後半のセッションでは、基調講演として、「国連人権と多国籍企業及びその他の企業の問題」に関するワーキンググループメンバーのプヴァン・セルヴァナサン氏（Dr. Puvan Selvanathan）より、「ビジネスと人権に関するグローバルトレンド」と題したビデオメッセージを上映しました。この中でスプラナサン氏は、2011 年に「ビジネスと人権に関する指導原則」が国連人権理事会によって採択されて以降、様々な業種や規模の企業がこの問題に関わるようになってきたことを挙げた上で、この指導原則が人権を保護する国家の義務、人権を尊重する企業の責任、そして救済へのアク

セスという三つの柱で構成されていること、また、欧米の価値観に基づいて作成されたこの指導原則に沿った形で、全く異なった文化圏であるアジアに属する日本においてこのような国際会議が開催されていることは非常に重要であることを強調しました。

自身もマレーシア人であるセルヴァナサン氏は、指導原則について是非アジアの価値観をより盛り込んでいきたいとした上で世界経済に大きな影響力をユウしている日本企業に対して、この分野でも積極的な活動をお願いしたいとした上で、ステークホルダー・エンゲージメントプログラムについて、人権という課題を日本・アジアの視点で議論するという意味で有意義であると述べました。

セルヴァナサン氏はまた、人権に関する議論に加わることを躊躇する企業に対しては、決して恐れないで頂きたいとした上で、多くの企業がまだ手を付けずにいる領域であるからこそ先取の利益を受け得る領域 (Blue Ocean) であり、世界経済の主要プレーヤーの一員である日本企業が取り組んだ場合、世界全体に与える影響は大きいことを指摘しました。

その後、事務局より 2014 年版のステークホルダー・エンゲージメントプログラムについての説明を行った上で、関与頂いている NGO・有識者の代表として寺中誠氏 (東京経済大学講師、元アムネスティインターナショナル日本事務局長) と鈴木均氏 (株式会社国際社会経済研究所 代表取締役社長) より今後の同プログラムに期待する点についてそれぞれコメントを頂きました。
